

2014年10月24日

建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム (DAAS)

第9期総会 芦原太郎理事長 挨拶

ご紹介頂きました芦原太郎でございます。

今年の2月、鈴木博之理事長が逝去されて以来、理事長代行という形でDAASの活動をすすめて参りました。

鈴木博之先生には様々な意味で建築界はお世話になりました。また鈴木先生のお力によりDAASのデジタルアーカイブスも確立されていくものと思っておりましたが、このような形となり私どもで受け継がなければならないという思いでございます。

私も父が建築家でございます、亡くなりまして12年になります。

事務所で一生懸命に資料や図面を揃えるということを行い、アーカイブスを整えようとデジタルアーカイブスも制作してまいりましたが、限界を感じておりました所、武蔵野美術大学が、資料を保管、整備をして頂けるということになり、安心をしております。

丹下先生、村野先生、菊竹先生と、次々と近代の先生がたが亡くなられ、事務所が継続されているところもございますし、事務所がなくなってしまうところもございます。建物だけでも残ってくことが出来れば、と思っておりましたが、現在は次々と建物も壊れていくというような状況です。

そのような中で、しっかりと資料やデータを残していくことは、最低限必要なことだと痛切に感じております。そのような意味で、デジタルアーカイブスは、近代の建築的な資産を如何に次の時代に記録して残していくか、という大変重要な役割を果たしているのではないかと思います。

最近では、国立の文化庁 近現代建築資料館も出来ました。日本建築家協会でもアーカイブスを考えております。各団体、或いは様々な組織で、近代の建築資産の資料を残していくことが大事である、という認識は共通だと思います。そして、それぞれに努力を続けているところでもあり、その活動が上手く連携をして、近現代の建築資産を良い形で残し、次の世代に引き渡せるということ、この場で、皆さんに知恵を絞って頂くことが大切なことだと考えております。鈴木先生もそのようにお考えになられていたことだと思いますので、是非、資料を次の世代に残せるようにご協力を宜しくお願い申し上げます。

(※第9期総会の冒頭の芦原理事長の御挨拶をテープ起こししたものです)